

隠岐温泉 GOKA

Ok i Onsen GOKA
(島根県隠岐の島町)



生まれて初めて隠岐にやってきた。東京から隠岐へ行く場合、伊丹で飛行機を乗り継ぐことになる。伊丹ー隠岐間は1日1便しかないため、飛行機を利用する場合は日帰りが不可能。そこで、ゆっくり1泊して隠岐の温泉を楽しむこととなった。

隠岐は南側にある3つの小さい島「島前（どうぜん）」と、北側にある大きな島「島後（どうご）」の2つに分けて考えることができる。空港は後者にある。

隠岐は山林資源の豊かな島で、ユネスコがジオパークと認定。産業としては漁業が

盛んだ。しかし、意外なことに温泉は今回紹介する隠岐温泉1か所しかない。隠岐温泉は島後の隠岐の島町役場が運営している。建物外観は和風ではない立派な鉄筋コンクリート造3階建てである。

中に入ると左手にフロントがある。靴を脱いで、入浴料を支払う。町役場が運営しているだけあって、入浴料は良心的な価格である。フロント奥には休憩場所と食事処があり、おでんのいいにおいが立ち込めている。おでん以外にはうどんも食べられるようだ。

浴室は2階だ。階段を上ると、もう一つの休憩スペースがある。ソファがあり、2基のマッサージ椅子（10分10円と格安）、1基のフィットネスバイクがある。男湯は左手である。

脱衣室には少々古びたロッカーがある。コインは必要ない。それなりに大きなかばんも入りそうな大きさである。脱衣室には洗面台もある。

いよいよ浴室だ。浴室の入口を開けると、そこには前室がある。右側にある扉を開けると洗い場が4か所ある部屋になっている。なぜかそこには誰もいない。左側の扉を開けると内湯の温泉だ。正面の通路を進むとそこは男女共用のスペースとなる。したがって、水着の着用が義務付けられている。水着はフロントにて100円で貸してもらえ。すなわち、この前室は水着の着脱場所というわけである。

内湯の温泉はシンプルだ。浴槽と洗い場しかない。洗い場は5か所。シャンプー、リンス、ボディソープが具備されている。

浴槽の大きさは定員15人ほど。湯温は適温。湯は無色であるが、浴槽のタイルは茶色に変色している。実際には温泉の成分で湯にも少し色がついているのかもしれない。

常連客はお年寄りばかりだ。取材日当日は前日よりかなり冷え込んだらしく、常連客達は「今日は寒くなったねえ」と喋っている。それ以外にはあまり話題はないようである。平和だ。

温泉はかくのごとくシンプルであるが、充実しているのは水着を着用するゾーンである。打たせ湯、寝風呂、マッサージ風呂、気泡風呂、ミストサウナがある。残念ながら、取材班は内湯の温泉だけで満

足したため、それらの取材はすっぱかしてしまった。

隠岐温泉へのアクセスは空港からも港からも車で約30分。かなり交通の便が悪いと言わざるを得ない。しかし、港からは無料の送迎バスが出ている。交通の足がない人は電話をして運行の時間を確認してほしい。

ちなみに隠岐温泉は、ナトリウム-炭酸水素塩温泉（等張性中性温泉）で、筋肉もしくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢神経障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、胃にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、皮膚乾燥症に効くという。

東京から遠く離れた離島で温泉を楽しむ。何とも贅沢な取材になったが、日本は全国どこへ行っても温泉がある。こんな素晴らしい国がほかにあるだろうか。その代わりに地震が多いのが難点であるが。

DATA

名称	隠岐温泉 GOKA
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町南方 296-1
電話	08512-5-3200
営業時間	14:00~20:00（最終受付 19:15）
定休日	月曜日（祝日の場合は営業）、年末年始
入浴料	大人（中学生以上）500円、子供（3歳以上、小学生以下）250円、 町内で70歳以上または身体障害者 300円
サウナ	あり
サウナ内のテレビ	未確認
取材日	2016年12月某日
取材	銭湯愛好会東京支部